



久留米市立三潞小学校 学校だより No.8

ぎんなん

令和5年12月20日
校長 原文也
児童数 494名

本年度の重点目標「主体的・協働的に取り組む子どもの育成」

持久走記録会も「自分から進んで」「かかわり合う」

11月30日(木)、持久走記録会を実施しました。右のとおり、学年ごとに時間を決めて運動場を走り、走った距離を記録する、タイム走で行いました。記録会に向けて、子どもたちは、中休みの持久走タイムや体育の時間に、自分のための達成や記録の向上をめざして練習を積み重ねてきました。放課後や休日、自主的に走って練習をしていた子どももいました。

- 1・2年生(3分間)
- 3年生(4分間)
- 4年生(5分間)
- 5・6年生(6分間)

そして、記録会当日。どの学年の子どもたちも、自己記録の更新をめざして、どんなにきつても最後まで走り通そうと、真剣な表情で歯を食いしばって走っていました。走り終わった後、自分の力を出し切って、顔をゆがめながらも満足感に浸っている子どもたちの姿がとても印象的でした。また、走っている友達を心の底から応援し、励ましている子ども、走り終わった友達や下級生に「〇周と〇だったよ。とても頑張ったね。」と温かい声をかけている子どもの姿もたくさん見られました。今年の本校の合言葉「自分から進んで」「かかわり合う」を子ども一人一人が体現している持久走記録会でした。また、保護者の方々の温かい応援が、子どもたちの背中をととても後押ししてくれました。応援、ありがとうございました。

私は、何事においても、「結果は大切。しかし、結果よりも過程がもっと大切。」だと思っています。しかし、子どもたちは、「今までが一番長く走れてよかった。」「前よりも記録がよくなかった。」など、どうしても結果だけを気にしがちです。「自分の最高記録を出せてよかった。持久走タイムや体育の時間に、一生懸命頑張って走ったから記録を出すことができたんだ。」「今日はあまり記録がよくなかった。でも、今まで頑張って練習してきたんだ。次はもっと頑張るぞ。」など、子どもたちが、結果に至るまでの過程をきちんと評価できるようにするためには、私たち大人の声かけや意識づけが必要です。子ども自身が、過程をふり返り、自分のよさ(不十分さ)を実感し、次の活動意欲へとつなげていくことが私たちの役割だと思います。学校・家庭・地域が心を一つにして、過程を大切にする子どもたちを育てていきましょう。引き続き、保護者の皆様や地域の皆様のご協力をよろしく願います。



ようこそ秋まつりへ(1年生)

1年生は、11月21日(火)、三潞保育園の年長さんを招待し、体育館で秋まつりを行いました。子どもたちが、「自分から進んで」取り組み、「かかわり合う」秋まつりになるよう実行委員を募り、その子たちが中心となって、担任の先生と一緒に内容を考えたり、準備を進めたりして、まつり当日を迎えました。

まず、ぎんなんフェスタでも発表した「くじらぐも」の音読劇を披露しました。そして、年長

さんのために一生懸命準備をした「どんぐりつかみ」「落ち葉トランプ」「松ぼっくりレース」などの遊びを一緒に楽しみました。子どもたちは、年長さんが分かるように工夫しながら遊びのルールを説明したり、いろいろなお店を回ってお世話をしたりしていました。年長さんに優しく接し、一緒に遊んでいる子どもたちの姿が、とても微笑ましかったです。



性の健康と権利に関する学習（5・6年生）

12月18日(月)は、福岡県性暴力対策アドバイザーである福田由紀子先生にご来校いただき、5・6年生の各クラスで、性の健康と権利に関する学習を行いました。

身体や持ち物、気持ちや考え、空間や時間、そして、性にも「境界線」があること、「境界線」は自分を守り、相手を尊重する透明バリアであることを学びました。「境界線」がピンチな時には、①「イヤ」と相手に伝える、②その場を離れる、③信頼できる大人に相談することが大切です。また、自分だけの「大事なところ」であるプライベートゾーン（体操服で隠れるところ）があること、性暴力にあいそうになった時、あった時の対処法も学びました。福田先生が、子どもたちに語りかけるように、温もりのある優しい雰囲気のスライドを見せながら、話をされたり、問いかけたりされたので、子ども一人一人の心の中にスーツと入っていく感じがしました。私自身、学習の様子を見ながら、子どもたちと関わっている私たち大人が、子どもの安心・安全を守っていかなければならないと改めて強く思いました。



久留米版PUSH project～心肺蘇生法講習会（6年生）

6年生は、12月19日(火)、久留米版PUSH project（心肺蘇生法講習会）に参加しました。PUSH projectは、久留米大学高度救命救急センターの医師さんが中心となり、市内の小学校6年生全員を対象として開催されています。心臓停止が起きた場合に、「胸骨圧迫とAEDの使い方」「誰かが倒れた時に声をかける勇気」など実践的な対処法を学び、子どもたちが、緊急時、主体的に行動できるようにすることが目的です。

実は、心臓突然死で亡くなる方は、年間約7万人もいらっしゃるそうです。昨年、交通事故で亡くなられた方が約2,600人ですので、いかに多いかが分かります。心臓突然死を救うには、救急車が来るまでの心肺蘇生術が何より大切です。そこで、身のまわりで誰かが倒れた時に、どのような行動を取ったらよいのか、実際に体験しながら教えていただきました。

私たち大人でもそうですが、子どもたちが、この講習会に参加したからと言って、心肺蘇生法ができるようになるわけではありません。大切なのは、このような状況に遭遇したときに、どのような行動を取ったらよいのか体験しておくことだと思います。体験が0であれば何もできませんが、1であれば何かできるかもしれません。子どもたちにとって、大変貴重な学びの場でした。



2学期も保護者の皆様、地域の皆様のご支援、ご協力ありがとうございました

2学期の登校日も残りわずか2日、今年も11日を残すだけとなりました。2学期は、運動会やぎんなんフェスタ、持久走記録会など、子どもたちが目標（めあて）を持って、長期間、準備や練習に取り組む行事が続きました。その都度、子どもたちが、目標達成に向けて一生懸命頑張り、一つ一つの行事が終わるたびに自分たちを振り返り、日々の学校生活や次の行事に生かすことができるようにしてきました。そうすることで、この2学期、子どもたちは、「自分から進んで」「かわり合う」経験を積み重ねながらいぶん成長しています。実り多き2学期でした。これもひとえに、様々な面でご支援、ご協力をいただきました保護者の皆様や地域の皆様のおかげです。ありがとうございました。